

問 市民の命を守れ

答 国の行方を見定めていく



山下 由美

国の政治が市民を不安に落とし入れている今、命を守るのが宍粟市政のつとめです。

問 廃止すべき後期高齢者医療制度。市独自の保険料補助を。

市長 国において保険料の軽減策が議論されています。市独自の補助の考えはありません。

問 障害者サービスに市独自の利用料補助、給食費の無料化を。

市長 新たな助成は考えておりません。

問 音声お知らせ装置は無料だが、配線にお金がかかる。総ての人が利用できるよう市で補助を。

企画部長 生活保護認定者を基本に補助を考

えています。

問 山崎町管内の総合福祉センターは住民の願い。いつ建つのか。山崎市民局廃止後の跡地利用は。障害者・憩の部屋は必要だが、どう対応するのか。

市長 市全体を統括する福祉センターを総合計画10力年の後期に考えています。更地とした上で利用したく、ふれあいミーティングでみなさんと検討します。しばらく現状維持し、利便性を考えて適所の検討を行います。

問 幼稚園の担任の先生は正規職員にすべきでは。

教育長 職員数や学級数、園児の人数の推移を勘案しながら検討していきます。



委員会視察報告

広報委員会

視察日 5月21日〜22日
視察先 南丹市、木津川市
目的 広報の先進事例を学ぶ

南丹市、木津川市に学ぶ

宍粟市合併3年目となり議会だよりも発行が12回目を数えます。旧4町から出ている議員で広報委員会を編成しているところですが、過去の4町の議会だよりの編集方針が少しずつ異なり新市になってからより見やすい紙面はどうあるべきか模索していました。宍粟市は進んでいるのか、遅れているのか、偏っているのか、公平な表現で見やすい紙面か、市民の方の意見は反映できているか等です。5月下旬、当市とよく似た中山間地の南丹市と先進的な文化を持つ京都の木津川市の広報委員会と交流を持ち紙面づくりのノウハウを学びました。以下はその骨子です。

現行の問題点は文字が多すぎ読みづらい。改善点としては質問発言者の写真を入れる。他市の議会では女性議員も多く、活発な議論ができました。民主主義に準じた議会の発言と広報のあり方について当市は必ずしも進んでいない、これらを含めて議会の中の議員間の無用の摩擦を避けるため数項目の「議会広報の概要」を視察後につくり共通認識の下に更に見やすい紙面になるよう工夫しました。今回からの議会だよりをそんな目で見ていただけたら幸いです。健全な行政とは何か？次世代の為の議会のあり方は？地方での民主主義とは何か？一歩でも前進しなくては...そんな感想を持ちながら南丹市と木津川市の広報視察でした。



木津川市議会との交流